

公益財団法人日本学生航空連盟所属アレキサンダー・シュライハー式ASK21型JA2379及び
水産航空株式会社所属セスナ式U206G型JA3904の航空重大インシデント調査について
(経過報告)

令和4年8月25日
運輸安全委員会(航空部会)

運輸安全委員会は、令和3年9月8日、埼玉県熊谷市妻沼滑空場西側場周経路上において、公益財団法人日本学生航空連盟所属アレキサンダー・シュライハー式ASK21型JA2379及び水産航空株式会社所属セスナ式U206G型JA3904が接近し、JA2379の機長から国土交通大臣に対して異常接近報告書(航空法第76条の2及び同法施行規則第166条の5の規定に基づく報告)が提出されたことによる航空重大インシデントについて、令和3年9月から原因を究明するための調査を進めてきたところであるが、これまで得られた情報をもとに、さらに分析を進め、調査結果について原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。このため、本件調査については、本重大インシデントが発生した日から1年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第25条第4項の規定に基づき、以下のとおり当該調査の経過を報告する。

なお、本経過報告の内容については、今後、新たな情報の入手等により、修正されることがあり得る。

また、本調査は、本件航空重大インシデントに関し、運輸安全委員会設置法及び国際民間航空条約第13附属書に従い、航空事故等の防止に寄与することを目的として行うものであり、本重大インシデントの責任を問うために行うものではない。

1. 航空重大インシデントの概要

令和3年9月8日(水)、妻沼滑空場を発航し訓練飛行を行っていた公益財団法人日本学生航空連盟所属アレキサンダー・シュライハー式ASK21型JA2379及び東京都調布飛行場を離陸し航空写真撮影のため飛行していた水産航空株式会社所属セスナ式U206G型JA3904が、妻沼滑空場西側場周経路上で接近した。

2. 調査の概要

運輸安全委員会は、令和3年9月10日、本重大インシデントの調査を担当する主管調査官ほか1名の航空事故調査官を指名した。現時点までに、関係者からの口述聴取、収集した情報の分析等を実施した。

3. 判明している主な事実情報

(1) 飛行の経過

水産航空株式会社所属セスナ式U206G型JA3904(以下「B機」という。)は、航空写

真撮影のため、機長が左操縦席、カメラマンが後方左席に搭乗し、調布飛行場から妻沼滑空場近くの埼玉県行田市立野遺跡^{たての}に向かっていた。

一方、公益財団法人日本学生航空連盟所属アレキサンダー・シュライハー式ASK21型JA2379（以下「A機」という。）は、機長が後席、訓練生が前席に搭乗し、妻沼滑空場第2滑空場滑走路14から訓練生が操縦しウインチ曳航により発航した。

A機は、ダウンウインドへの旋回が終わる直前、2時の方向上方にB機を発見し、緩やかに左へ回避操作を行った。一方B機は、A機を視認し続けていたこと、A機が自機より低く高度を下げているように見えたことにより衝突の危険はないと考え、A機の上を通過し写真撮影を開始した。



A機



B機

図 重大インシデント機

(2) 負傷者

なし

(3) 航空機の損壊

なし

(4) 気象

重大インシデント発生場所の南西約8kmに位置する気象庁熊谷地方気象台における関連時間帯の気象観測値は、次のとおりであった。

12:20 降水量0mm 気温21.4℃ 風向・風速(平均)北東2.0m/s

(最大瞬間)東3.5m/s 日照時間0分

4. 今後の調査

本航空重大インシデントの原因の究明及び事故等の再発防止策の検討のため、これまでの調査で得られた情報をもとに、更なる分析のほか、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。

本委員会は、これまでの調査、分析等によって得られた結果を踏まえて、引き続き本航空重大インシデントの原因等の調査を進める。